

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072300462
法人名	社会福祉法人 南八女福祉会
事業所名	グループホームいずんじま
所在地	福岡県八女市川犬1025
自己評価作成日	平成24年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigokensaku.jp/
----------	---------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月22日	評価結果確定日	平成24年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お茶畑に囲まれた立地条件を生かし、静かな落ち着いた空間の中でゆっくりとした時間を送れるよう配慮しながらサービスを提供している。近くにある市立保育所・小学校等の子どもたちとの交流も年に数回行ない、子どもとも触れあえる環境作りを構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は八女市名産の茶畑に囲まれ、開放的な広い敷地内には、同法人のデイサービス事業所が併設されており、地域との交流や災害対策等、様々な面で連携が図られている。開設来、少しずつ地域への働きかけを積み重ね、法人主催の秋祭りは、地域からの出店と多数の参加者を得て盛況に開催されており、地域住民との交流や事業所の理解を深める機会となっている。また、校区の行政区長の会議に参加し、地域の一員としての活動や新たな連携に向けて働きかけを行っている。市内に同法人のグループホーム「春の山」が開設されることとなり、新たな連携を活かしながら、入居者本位の暮らしの実現に向けた、更なる資質の向上が大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と同じ空間で生活している中で、ゆっくりと流れる時間の中共に育んでいく生活を大事にしていきたいと考えています。しかしながら職員には浸透しにくく今後とも努力が必要です。	開設時のスタッフとともに作られた理念「一歩ずつ 共にはぐくむ あたたかな生活 ゆとりの心と思いやり」掲げ、玄関やホールに掲示し、日々のケアの振り返りとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	恒例になっている秋祭りは地域の方々も数多く訪れ、地域保育所・小学校児童も日常的に訪れている。	校区の行政区長の会議に参加し、地域の一人としての活動や交流を深める機会としている。隣接するデイサービスと合同で秋祭りを開催している。地域からの出店や農作物の出品があり、300人近くの参加を得て、盛況に開催されている。また、小学2年生の時に職場体験を行った児童が、3年生になって出し物を披露してくれる等、継続した交流の機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	24時間365日スタッフが居る状況と地元小学校の通学路という地域環境を考え子ども110番(安全ハウス)の登録を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上につなげる事が出来るよう配慮している	家族、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1回、定期開催されている。今年度は民生委員などの交代もあり、当該サービスの説明や会議の意義、認知症の理解を議題にし、あらためて事業所の理解を深める1年となった。地域情報の収集の機会としても活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ赴く際や運営推進会議等で行政担当者との交流を図っている。	運営推進会議には、市担当者の出席を得ている。その中で、地域との連携や定期開催に向けた協議も行われている。介護保険担当者やケースワーカーとの連携を図りながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないよう取り組んでいる。	禁止の対象となる具体的な行為についてや、言葉による拘束も含め、定例会等にて職員への周知を図り、共通認識を図っている。生活習慣の把握や意向確認を行いながらマットレスのみの使用等、生活環境に配慮したり、点滴中は職員が寄り添う等、身体拘束をしないケアに向けた取り組みが行われている。日中の施錠は行われていない。	内外の研修の機会を継続して確保し、身体拘束をしないケアについて、職員全員の共通認識を図っていくことが必要です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を交え防止に努めている。施設内外の研修を通じ今後も努力する。		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居者の一名が利用中である。本人や家族の申し出がある場合、説明等行えるようにしている。	現在、日常生活自立支援事業を活用している方もおり、毎月、担当者の訪問を受けている。資料の整備や家族への説明を行い、関係機関への橋渡しができるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、理解を求めて交付している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時苦情処理の説明を行なっているが現時点では無いため反映は行われていない。	入居契約時より、家族の積極的な来訪を働きかけている。家族の面会時には、近況報告を行うとともに、意見の収集に努めている。意見箱を設置している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議で議題や今後行いたい研修などの意見を聞き反映している。	毎月、職員全員参加の定例会議を開催し、情報共有や意見の収集を行っている。出された意見は全体での検討を行い、運営への反映に努めている。空気清浄機の購入等、実際に反映されている事案もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別で可否の結果を出すことはない。一人ひとりの能力で判断している。	職員の採用にあたっては、意欲のある人材を求めており、年齢や性別、資格等による排除は行っておらず、常勤採用を基本としている。また、60歳での定年制はあるが、再雇用も可能となっている。小学校の出前授業の講師を務めることもあり、社会参加や能力を発揮する場面もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実績なし	毎月の定例会議の中で、理念に基づいた日々の関わりや対応、言葉かけについて、周知徹底を図っている。運営推進会議の中で、認知症に関する啓発も行いながら、人権尊重への意識を高めている。	

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成計画はないが段階に応じて職務内容を考え、その都度内部研修を行なう。能力に応じて外部研修等機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡協議会に参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	精神・身体状況を勘案したアセスメントシートを家族に記入してもらっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に困っていた事や不安に感じた事等の聞き取りを行ない、ホームでの生活に役立てる事が出来るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際に家族はギリギリまで我慢をしてくださると考えて追い込まれた状況で入居の相談に来る事が多い。それを踏まえて相談に乗るよう配慮している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力している		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービスを行なう上で家族の聞き取りが役に立つ事が多々あるので綿密な連絡を取れるように配慮している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。	自室の電話から、家族や友人に電話をかけて、会話や買い物依頼等を行っている。家族の協力も得ながら、法事や買い物、外泊等に出掛けることもある。少しずつ重度化していく中で、日中短時間の外出が増えてきている。	

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者との関わりが持て、共に共同生活が営めるよう配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて情報の提供等行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	配慮している。	入居時に、家族の協力も得ながら、生活暦等の情報収集を行っている。各担当者によるケアチェック表への記載や、「なんでもノート」、日々の記録やカンファレンス等による情報共有や検討を通じて、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートの情報や家族からの聞き取りを重視している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤者・夜勤者の申し送りを綿密に行ない、状況の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に沿うよう心がけている。	入居者や家族の意向を踏まえ、医師の意見も参考にしながら、各担当者によるケアチェック表や日常の記録等をもとに検討を行い、介護計画を作成している。	定期的にモニタリングを行い、記録に残していくことや、その内容についても充実を図り、計画の見直しへとつなげて欲しい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りの為の記録を何種類か準備し、場面場面にに応じて記入できるように考えている。		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己 30	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医はそのまま継続して頂いている。事業所として主治医とか良い関係が築けるよう配慮している。	これまでのかかりつけ医への継続受診や、複数の協力医療機関からの往診体制を確立している。他科受診も含め、日常の状況を共有できるように、受診支援を行っている。随時の連絡や、来訪時等、家族との情報共有に努めている。	医療連携体制において、職員として配置されている看護師の役割について、より明確な位置付けを行い、関係者間での情報共有を図りながら、日々の健康管理や早期対応へとつなげて欲しい。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの主治医とは普段から看護師・受付等を通じ相談・報告を行ない、連携は取れている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	SWや主治医と連携を密にし、情報の交換に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	行なっている。	入居時に、重度化や終末期のあり方について、指針をもとに説明し、意向確認を行っている。状態の変化に伴い、その都度、意向確認を行い、看取り介護計画書の作成、及び、本人、家族の同意を得ている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心がけている		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回の避難訓練を行なっている。	年2回、併設するデイサービスとの合同訓練が行われており、消防署との連携や、入居者の参加がある。夜間は浴槽に水を残し、防火用として備えたり、オール電化の為、停電に備えコンロを常備している。	地域との協力体制作りへの働きかけや、職員の少ない夜間を想定しての訓練実施等が求められます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけている。	年長者に対する敬意や節度をもった対応を心がけながら、伝わる言葉として方言での会話を行っている。また、定例会等にて、対応や言葉かけについて話し合いを行い、人格の尊重やプライバシーへの意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により買い物に行き好みの洋服を購入し、身だしなみ気をつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	機能的に可能な方にはそれぞれの役割の中で段階的に手伝って頂いている。	平日の昼食は法人厨房での調理となり、朝・夕食と日曜日の調理はホームで行っている。少しずつ重度化が進む中ではあるが、食事の準備や後片付けに参加する方もおり、食事形状や介助等、個別の支援が行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の計算の下食事を提供している。		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の消毒・歯磨き等心がけている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	配慮し、支援を行なっている。	各居室にはトイレが設置されている。排泄チェック表や、一人ひとりの仕草から察し、トイレ誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携のもと予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能で、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。	毎日、入浴準備を行い、希望や状況に柔軟な対応に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠い時は居室にて昼寝をして頂いたり配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より全ての薬の説明をいただき薬科辞典も常備し、理解を深めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。		

福岡県 グループホーム いずんじま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等積極的に行っている。また、外出レクを通じて、四季を感じてもらったり普段は行かないような場所へも行けるようほぼ毎月企画立案を行なっている。	ホーム前の庭にはベンチも設置され、気軽に日光浴を行うことができる。また、天候や希望により、畑や花壇の様子を眺めたり、周辺の散策に出かけている。少しずつ重度化していく中ではあるが、季節の花見や祭り等、外出行事を企画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者では自ら所持金を持ち自分の意思で使っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全ての部屋に電話を引く事は可能。一部の入居者は行なっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周りは畑や茶畑に囲まれた静かな地域で外部からの騒音等はない。	愛猫の住処でもある中庭を中心として、2ユニットが回廊でつながり、全体的にゆとりあるスペースが確保されている。和室の掘り炬燵や、庭に設けられたベンチ等、各所にくつろぎの場所を設けている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が近くの席に座れるよう配慮したり、畳の部屋も有る。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れた家具を持参してもらったりプライベートスペースとして住みやすくなるよう配慮している。	各居室には、トイレや洗面、クローゼットが備え付けられている。また、個人として電話を設置している方もおり、プライバシーに配慮されている。個別の希望や状況に応じて、畳敷きにも対応しており、習慣の継続や安全面での配慮を行い、安心して過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には本人の部屋と認識できるように配慮し、部屋を間違えたりしないように工夫している。		